

自ら考え、発信する子の育成 ～ 考える場を工夫した授業づくりをとおして ～

白山市立広陽小学校

1 事例の概要

(1) 主題設定の理由

現在、学校教育には、社会の変化に対応するため、子ども達に、確かな学力、豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」を育むことが求められている。

一方、本校の子ども達に目を移してみると、自分で考え、判断して行動したり、周囲の人とうまくかかわりながら、物事に取組んだりするといったことはあまり得意とは言えない。また、授業でも、事実を問うような簡単な発問には意欲的に答えるが、自分の考えを話したり書いたりするとなると、まだまだ自信をもてない子が多い状態である。

このような教育の現状や子ども達の実態をふまえて、一昨年度より、「自ら考え、発信する子の育成」を主題に掲げ、研究に取り組んできた。また、考えることで発信内容が決定づけられ、発信することで自らの考えが整理されたり、他の考えとの比較から共通点や相違点を理解したりするなどの思考の深化が始まると考え、副題を「考える場を工夫した授業づくりをとおして」とし、授業の中での思考場面の位置づけや教師の指導・支援のあり方を研究することとした。

(2) 研究の視点

◎低・中・高別のめざす子ども像に迫る具体的な手だて（指導・支援のあり方）を考え、授業研究にもとづいて6年間をとおした系統的な指導のあり方を模索する。

- ・ 思考を促す学習過程のあり方の工夫（学習課題、学習活動、指導・支援・評価の工夫）
- ・ 教科・単元における思考力・思考場面を明確にするための教材研究
- ・ 「話す」「聞く」「書く」のつけたい力を育成するための指導・支援のあり方の具体化

A-1 低・中・高別のめざす子ども像

2 実践内容

(1) 思考を促す授業づくりの視点

本校では、めざす子ども像に迫るために、次の4点を授業づくりの視点とし、授業実践に取り組むことにした。

- ① 考える場を保障した課題解決型の学習過程
- ② 学習意欲を喚起し、思考を促す学習課題（追究課題）の設定
- ③ 豊かな思考を生み出すための、五感をとおした学習活動の工夫
- ④ 子どもの思考を支援する板書の工夫

(2) 「話す」「聞く」「書く」つけたい力の系統表

上記の授業づくりの視点を踏まえて、教師が如何に授業づくりを工夫したとしても、子ども達に「話す」「聞く」「書く」などの基本的な学習技能が定着しなければ、考えを出し合い、それを交流することで課題解決を図っていく授業を行うことは容易ではない。そこで、「『話す』『聞く』『書く』つけたい力の系統表」を作成し、それをもとに、どんな力を身につければいいのかを子ども達自身にも意識させながら指導していくことで、これらの力を育成したいと考えた。

(3) 思考力の育ちをどのように評価するのか（評価の方法）

- ・ 研究授業の指導案に目標、評価規準・評価方法を明記する。特に思考力育成に迫る手だてには☆印をつけ、授業の考察の視点とする。
- ・ 「めざす子ども像」に照らして、年度当初、学期末、年度末に児童の実態を協議し、思考力

の育成についての成果と課題を明確にしていく。

- ・ 年度当初、1学期末、2学期末に児童の意識調査を行い、それぞれのデータを比較することで、思考力にかかわる児童の意識を分析・評価する。

B-1 授業づくりの視点

B-2 低・中・高学年の具体的な取り組み

B-3 系統表

3 指導の実際

第3学年 社会科 「工場のしごと ～牛首紬をつくる工場 N産業～」

(1) 本単元でめざす姿：「考えをもち、聞き合う子」とは…

見学やインタビューなどで調べたことを交流し、牛首紬づくりに携わる人々の工夫や努力に気づいていく姿

(2) めざす姿に迫るための指導・支援の工夫

- ・ 牛首紬の製品を提示し、見たり触ったりする活動を取り入れ、色や肌触り質感などをとらえさせる。
- ・ 実際に愛用している方に牛首紬の特徴やよさについてお話していただくことで、本当に軽くて着心地のよい丈夫な着物であることを実感させ、〈N産業では、軽くて丈夫な牛首紬をどのようにして作っているのだろう〉という課題意識につなげていく。
- ・ 見学は、自分たちの予想を検証するという位置づけで実施し、一見しただけでは理解しにくいところは説明をお願いしたり、機織りを体験させてもらったりする。
- ・ 子ども達の考えを検証するために、N産業の方にゲストティーチャーとしてお話していただくとともに、「のべ引き」の実演をしていただく。



「のべ引き」の実演の様子

C-1 指導案

C-2 学習の様子

4 成果と課題

(1) 成果

研究主題「自ら考え、発信する子の育成」を設定して2年半が経過し、研究に取り組む以前と比較すると以下の点で子ども達の育ちが見られるようになってきた。

- ① 学習課題をつかみ、それに対して自分の考えをつくり、考えを交流することで課題を解決していくという1時間の授業の流れが、子ども達の中に定着しつつある。
- ② 学習課題に対して「自分の考えをつくろう」「考えを話そう」という学習に向かう意欲や構えが身についてきている。

上記の成果は、以下の取り組みによって、めざす子どもの姿、めざす授業像について教師間の共通理解が深められてきた結果として表れてきたものであると考える。

- ① 研究協議・教材研究の充実
- ② 発達段階に応じためざす子ども像の設定と具体的なイメージの共有
- ③ 「話す」「聞く」「書く」つきたい力の系統表の作成

(2) 課題

本校の研究主題にある「自ら考え、発信する子」や低・中・高別のめざす子ども像に照らしてみると、まだまだ到達しているとは言えない。そこで、以下の点を課題として授業改善を図り、めざす子どもの姿に迫っていきたいと考えている。

- ① 確かな教材観に支えられた学習課題、学習計画の改善
- ② 1時間（45分間）の授業の構成
- ③ 「話す」「聞く」から「話し合い」へ